

事後評価報告書（日中研究交流）

1. 研究課題名：「橋梁構造物の大地震被害予測技術の高度化と制震技術の開発」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：学校法人 名城大学工学部 教授 宇佐美 勉

2-2. 中国側研究代表者：天津大学 建築工程学院 教授 李 忠献

3. 総合評価： B

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

座屈補剛ブレース、低サイクル疲労、複合外力等、日本側研究の内容は明らかで、発表論文数も多く、研究成果が挙げられているが、中国側の研究成果を取りまとめた報告がなされておらず、成果としてどのような研究テーマの全体構成となり、どのような共同効果、相乗効果があったかが明確ではない。

(2) 交流成果の評価について

教員間の交流に加えて、大学院生の派遣などの活発な交流を実施しており、研究チーム間の交流に限らず、日中間の多くの大学の教員や大学院生の相互訪問などに掛け橋的な役割を果たした点は評価できる。ただし、研究チーム間の交流として本研究のための中国から日本への訪問回数がやや少なく、それが中国側の研究成果の把握が不足している原因になっているようにも思われ、研究チーム間の交流実績は十分とは言えない。

両研究チームは、継続的研究交流について合意しており、さらに 3 年間にわたって引き続き交流を進めることとしている点に期待したい。

(3) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

「相手側との協力による研究への相乗効果」の記述は、わずか 2 行であり、具体的でない。中国の研究機関と共同研究することによってこそ得られる相乗効果がどこにあったのか、その成果に関する具体的な記述が必要である。